



＜学校教育目標＞
人間性豊かな実践力のある子どもの育成
～心豊かな子ども 進んで学ぶ子ども たくましい子ども～

＜学校経営の基盤＞

- ① 公教育の立場を踏まえて
日本国憲法・教育基本法・学校教育法等諸法令
全体の奉仕者としての自覚と責任感、使命感をもつ
- ② 時代を見極めた新しい学校教育の創造
誰一人取り残すことのない「令和の日本型学校教育」を目指す
↓
多様な子ども達の資質・能力を育成するための「個別最適な学び」と社会とつながる「協働的な学び」の実現
- ③ 教職員の働き方改革
業務改善の実施
一部教科担任制⇒指導技術の向上・教職員の協働

令和6年度重点目標 ≪新しい時代を切り拓く力を育む≫

子どもも教職員も「自分で決めてやってみる！」学校

学びのキーワード：いきいき！わくわく！ぐんぐん！

予測困難な時代を「自ら考え、主体的に行動し、責任をもって社会参画していく力」を
探求的な学びの中で育成する

＜目指す子ども像 ～7つの花～＞

- あいさつの花 進んで明るくあいさつ。
- なかよしの花 誰とでも仲良く助け合う。
- やさしさの花 相手の気持ちを考えた思いやりの心。
- しせいの花 姿勢よく目と耳と心でしっかりと話を聞く。
- もくもくそうじの花 隅々まで黙々掃除・進んで働く。
- あんぜんの花 交通ルール・規則を守る。互いの命を守る。
- げんきの花 早寝・早起き・朝ご飯で心も体も元気。

いきいきと働く教職員

○学校運営のなかで、
教職員が「自分で決めてやってみる」仕事を設定

★働き方改革

- 一部教科担任制・専科指導の実施。 →指導技術の質の向上・提出物やノートの添削時間の確保。
- サービス管理への意識向上。 →時間外在校時間削減（18:00 退校）
- 会議の精選と時間設定。 →見通しをもち、会議の充実と効率を図る。終礼は隔週金曜日に実施。
- 校務における ICT 活用の促進。

★OJT 改革（若年研修及び主題研究の在り方の見直し）

- 教職員一人一人に合った課題設定と授業研究を実施。
- 全職員の共通課題の設定。（子どもの自己決定・ICT 活用）
- 教職員自らが行うスケジュール決定。
- 協働性を高め、互いを支え合う職場へ。

★業務改善中間 CHECK（7月末）の実施

- 業務及び行事の実施方法の振り返り→教職員がアイデアや知恵を出し合いながら、よりよい方法へ変更。
- 個人の興味・関心や特技を生かせる企画・運営へ。



自分の強みを生かし、自分らしい働き方を実現する

わくわくして学ぶ子ども

○教育課程のなかで、
子どもが「自分で決めてやってみる」場面を設定

★GIGA 端末を活用した授業

- ICT を「文房具」として自由な発想で活用する授業づくり。
- デジタルドリルやデジタル教科書の活用 →個別最適な学びの充実。

★他者とつながる学び

- 全ての教科において、対話、情報活用、多様な表現の方法に重点を置く。 →協働的な学びの充実
- カリマネにより教育課程を精選・統合。 →探究的な学びへの展開。
- 子ども達がアイデアや知恵を出し合い、企画・運営する学校行事の実施。 →協働的な学びの充実

★外国語教育の充実（北九州市外国語教育リーディング校として）

- 外国語専科教員・学級担任・専任 ALT による授業実施。
- 光貞方式外国語教育（第1学年外国語体験活動から第6学年外国語科への段階的・系統的な授業）の実施。

★帰国・外国人児童教育の充実（北九州市センター校として）

- 日本語指導専任教員・日本語指導協力員による日本語指導の実施。
- 日本語適応指導と多様な文化理解、児童理解。 →個別最適な学びの実現



誰一人取り残すことのない「令和の日本型学校教育」を目指す

ぐんぐん広がる連携

★保護者との連携

- 自己学習力の向上に向けた家庭学習の取組
- 欠席や遅刻の確実な確認
- アレルギー対応、感染症、怪我、病気の確実な確認
- 適宜の家庭訪問や懇談による保護者との連携

★PTA・地域との連携

- 学校からの情報発信（通信・tetoru 配信・HP・参観等）
- PTA や地域の方々による登下校の見守り
- PTA サポーター制度による学校支援・協力
- 地域のよさ・人材を生かした教育課程の推進

★浅川中学校との連携

- 外国語教育小中一貫教育の推進（9年間の学びの充実）
- コミュニティースクール、中学校区学校連絡協議会の実施

★外部機関や専門職との連携

- スクールカウンセラー（隔週金曜日来校）による子どもの心・保護者への支援
- スクールソーシャルワーカーや関係機関との連携による家庭への支援
- 国際交流協会との連携による保護者への支援



地域とともにある学校づくり